
メモ用紙/沖神

ほうじ茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メモ用紙／沖神

【Nコード】

N0793BA

【作者名】

ほうじ茶

【あらすじ】

変わらない授業風景。沖田は、何気ない思いつきで、神楽とメモのやりとりをすることに。

(前書き)

久しぶりに書くから、
なんか文章力が…！

オチも…！ ((。 1 1)) 笑

——…ヒマだ。

歴史の教科担任である坂本のアホみたいなジョークに笑う者は、最早3Zにはいない。

何もすることがないので、
ふと隣の席を見つめてみる。

「……。」

陽の光を受けてきらきらと光る、
橙色の髪。
白い肌。

瞳は……。

ぐるぐる眼鏡さえ外せば、それに隠れた蒼く澄んだものが見えるはず。

そんなかわいい顔の持ち主も、もちろん話など聞いていない。

頬杖を付き、ぼーっとしている。

———…超ヒマだ。

隣のこいつに、一体何をしてやろう…。

眠くてちよっかいを出す気にもなれなかった俺は、それでも重い体を起こし、ノートのページを破った。

「…何してるアルか」

不思議そうに問う彼女。

俺は、破った紙にペンでこう書き、彼女の席に投げ入れた。

【ヒマ。】

彼女は眉をひそめ、返事を書き始めた。

——…ぽんっ

【知らねーよ】

片言でもなんとか喋れる日本語、だが書くとなるとそうとう難しい
ようで…

幼稚園児並だ。

とても高校三年生の字とは思えない。

【なんかしろよ】

自分でも笑える、無理難題を書き、投げ返した。

【ふざけんなバーカサード】

「…てめ…。」

返ってきた返事を見て、彼女に視線をぶつけると、彼女はべーっと舌を出してみせた。

…どき。

——…あれ……………？

慌てて返事を書き始める。

…今の、なんだ？

【もうすぐ冬休みだな】

とりあえず会話？メモ話？を続けようと、話を変えた。

【そーだな】

【おめーの顔見なくてせいせいするわ】

【こっちのセリフだバーカ】

…ぎゅ。

……………あれ？

なんでちよっと寂しいんだ？

【冬休み、どやって過ごすの】

【銀ちゃんと新八いじめする】

…………ぎゅぎゅ。

あれ？なんでちよっとイラっとすんだ？

銀ちゃん、

そんなの、いつものことなのに。

【あっそ】

【ウン。】

小さなノートの切れ端が、だいぶ字で埋めつくされた。

新しく破ろうかなと思ったのだが、どう話を繋げていいやら…

——…ちょっと待て、俺。

なんでこんな狂暴女に必死になってんだ？

さっきから、変だ。

「…沖田」

「!？」

不意をつかれ、驚いて振り向く。

「消しゴム、落ちてるアル」

「…あ。マジだ」

どーしたんだ俺。
落ち着け俺。

だってこいつはただの喧嘩相手で、それ以上でもそれ以下でもなくて。

…そうだろう？

———どき。どき。

ページを破った。
ちよっと震える手で、文字を刻む。

ぽんっ。

「……。」

折り畳まれた紙を開き、読む彼女。

「…!？」

——…この胸の高鳴りは、

「う…受けてたってやるネ!!」

——…面と向かって話せばきっと、気付けない。

「どーせ俺の勝ちでイ」

——…手紙でだから、素直になれんのかも。

「わっかんないアルヨ!!」

【チャイナへ

冬休み、どーせヒマだろ

いつもの公園で、

また相手しろよ
】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0793ba/>

メモ用紙/沖神

2012年1月1日22時51分発行